

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570313627		
法人名	有限会社わかば会		
事業所名	グループホームきらら浅舞		
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字道川南77-7		
自己評価作成日	令和6年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和6年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

館内を一望できるホールは、入居者が活動しやすく広い共有スペースを確保している。広いところで、入居者の動きや様子が確認出来る。気の合った入居者同士が好きな場所でソファに座り会話したりテレビや本を読んだり、音楽を楽しみながらリラックスできる空間作りを心掛けている。季節ごとの行事を計画し、入居者が明るく楽しく生活を送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者も職員も穏やかな時間の中で過ごされており、居心地の良い空間にレイアウトされたホールで過ごされている。居室も一人一人の使い慣れたもの、小物などが配置され、安全に生活できる工夫がされ、入居者が混乱しないように工夫されていた。午前、午後のレクリエーションでは元気な入居者の声がホールに響きわたり、職員と利用者との会話も多く、楽しく接している様子が見られた。日中は活動的に、夜間はゆっくり休めるように生活のリズムを整え、健康的に身体機能の維持向上を目指しているとのこと。職員教育についてもしっかりと目標をもって対応しており、職員もスキルアップ、資格取得に積極的であると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に共通認識を図るため管理者が理念の説明を行っている。また、理念をホール内に掲示し、理念に沿った支援ができるよう努めている。	理念をホール内に掲示し、共通認識が図られている。新人研修で管理者から説明がある。事業所理念、倫理綱領はポケットサイズのプレートにして職員は常に持ち歩いている。理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散髪やパーマ、髪染め等では近くの美容院へ予約すると来てくれる。食材の殆どは近くのスーパーを利用したり、野菜直売所に行き食べたい物を買ってきたりする。季節によって近所の方が採れたての野菜を持って来てくれる。	食材の殆どを近くのスーパーや野菜直売所で季節の野菜や果物を購入している。近隣農家から直接買い求めることもあり、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方が散歩の途中に「ここはどんな方が入っているの」と声をかけてもらったり、訪ねて来られる時があります。説明し良く理解して帰られますが、地域から孤立しないで、地域の方々と触れ合う機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	しばらくは書面により活動内容を報告しているコロナウイルスも落ち着いてきているので委員のメンバーで運営に対する意見を求めたい。※1月中旬頃コロナウイルスが発生し職員の体調もやっと落ち着きつつある。	書面により活動内容を報告していたが、コロナも落ち着いてきたようなので以前のように、利用者、利用者家族、地域の住民、行政、警察、消防、地域の薬局などと運営会議を再開できるよう準備している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用者の身体状況や生活、イベントの様子等をまとめた報告書を地域局に提供している。必要に応じて随時相談できる体制になっている。	地域局とは常に報告、情報提供し連絡を密にしている。必要に応じて相談ができる体制になっており、実際に相談していることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の廃止委員会や年間の研修計画の中に位置付け、身体拘束のない支援に取り組んでいる。虐待に於いては委員会を設置し、定期的開催し勉強している。現状では身体拘束の必要性はない。	身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会などを中心に、年間の研修を位置づけ、虐待や身体拘束のない支援に取り組んでいる。現在拘束を必要とする利用者はいない。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について管理者が研修で学んだことを職員に伝え知識の拡大を図っている。内容も難しく、もっと学んでいく必要がある		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族の要望があれば事前に施設見学をして頂き、納得のいく迄説明している。理解や納得したうえで契約に望んでいる。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	御家族が洋服や入居料を持ってこられた際には施設に対しての要望、意見等を気兼ねなく話して頂いており運営に反映させている。入居者にも気軽に何でも職員に話してもらえよう努めている。	施設の利用料支払い時などに施設に対しての要望、意見等を気兼ねなく話して頂いており運営に反映させている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員同士、意見を言いやすい関係を築いている。色々な意見や提案を出してもらい運営に反映させている。	日々の申し送りや利用者の状況など、なんでも記入できる「連絡ノート」があり、職員は意見を出し易い環境にある。管理者や計画作成者は意見や提案を出してもらい運営に反映させている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や南部の情報交、換会の研修に参加しお互いの問題点など話し合い、サービスの質の向上を目指して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に必要な支援は何か？を家族や介護支援専門員から情報収集し不安な生活生活出来るよう、ゆっくりと時間をかけ傾聴し対応している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に必要な支援は何かを入居前に本人や家族、介護支援専門員から情報を収集に努めている。不安を解消するため、職員、他利用者とゆっくり時間をかけて傾聴し対応している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事援助を手伝っていただいたり、お互いに暮らしを支えあっていく思いを大切にし馴染みの関係を築いていく。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月きらら通信を発行している。本人の様子や体調面でのことを伝え、共に本人を支えあっていくよう協力関係を大切にしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族や、同級生、友人からの電話があった時は居室でゆっくりと話していただいたとき、面会の時はコロナ対応でマスクをし玄関でお話出来るよう支援している。	美容院や主治医の継続の他、家族や、同級生、友人からの電話は極力つなぐようにしている。「きらら通信」は遠方の家族にも送付している。面会も解禁しており、マスク対応ではあるが、できる限りゆっくりと話せるように支援している	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士大変仲が良く、毎日笑いが絶えない生活を送っている。職員が調整役となりコミュニケーションができるよう見守っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族に対して納得するまで相談にのり、その方にとって一番良い方法は何かと一緒に相談し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	表情やその人なりの訴えなど、色々な面から得られる事を手がかりに努め、職員間で共有している。	ホールでの日中の活動時間を増やし、職員との交流時間を長くして、利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、できる限りその思いに答えられるよう努力、支援している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集した内容を職員で共有している。日々の何気ない会話の中からも情報を得ることもあり共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎日入居者の生活に関わっている職員からの意見を聞いて介護計画を作成している。職員のミーティングを利用し意見を出し合い記録している。	個別介護計画は必要時や少なくとも3か月に1回は見直しされている。毎日利用者に関わっている職員からの意見や、家族に「ケア計画についてご家族のお声をお聞かせください」という用紙の記入をお願いし、それらを元に個別計画を作っている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には身体状況、バイタル気付きなど記録している。ミーティング時にその日のバイタルの確認や様子を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブの際に買い物をしたり、他でイベントがあった時は外食したり、入居者が生活に楽しみが持てるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を受診している方、入居前から希望する病院を継続し受診している方もいる。定期受診に限らず、本人の希望があったり状態の変化に応じて主治医に連絡し支持を仰いでいる。	かかりつけ医の継続や、契約している協力医の受診もある。家族希望があれば受診に同行していただくが、生活を共にしている職員の受診支援もある。定期受診に限らず、利用者の希望や状態の変化に応じて主治医や協力医へ連絡し、支持を仰ぐこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の症状や状態に応じて医療機関と情報を提供し合いながら連携を図っている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当の医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換しながら早期退院に向け治療報告を密に行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来ること、出来ないことを家族や関係者に説明した上で協議したり、また、提案をして最善の方法で支援に取り組んでいる。	入所時、重度化や看取りについてグループホームのできることできないことの説明し、協議提案をして最善の方法で支援ができるように取り組んでいる。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の発生等緊急時の研修(年間計画研修)の資料をもとに勉強し実践訓練を定期的に行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署立ち合いで年2回夜間想定と日中想定を行い消防署からの総評をもとに再確認している。	年2回の防災訓練や火災訓練を行っている。日中、夜間を想定して行い、避難方法、避難場所の確認、状況認識できない利用者への対応など消防署からの総評をもとに再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に対するプライバシーの話題は他の入居者の前では話さないようにしている。	一人ひとりの利用者に、職員は穏やかで丁寧な声かけをしている。個人的な話のときは、居室や事務所で話を聞くようにしている。入浴・排せつ介助は同性介助を基本とし、介助に使う用品も目立たないように保管され、さりげなく介助されている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ハンガーラックに気に入った洋服をかけ、その日の気分や気温により着たい洋服がすぐに着られるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事ではテーブルを拭いたり、出来ることを行ってもらっている。入居者が食べたい物をメニューに入れ楽しく食事が出来ている。	利用者一人ひとり役割をもって職員とともに食卓の準備をしている。入居者の食の好みを尊重し、メニューに取り入れている。旬のものや懐かしいメニューに話が弾むこともある。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	義歯が合わなくなったり、歯の状態により盛り付けを工夫し、食べやすい形で提供している。食べにくい様子の時は職員で検討し支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。職員は一人ひとりきちんと出来ているか確認し口腔ケアを支援している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、声掛けや誘導を行っている。	24時間軸の排泄チェック表を確認。きめ細かい観察のもと排泄パターンを把握、自立に向けて、職員の努力と情報の共有がされている。その結果、現在は布パンツ、尿取りパット、リハビリパンツ利用でおむつ利用者はいない。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取と体操や運動で便秘予防に努めている。便秘傾向にある方は医師に相談し、その方に合った便秘薬を処方して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い安心して入浴できるよう支援している。午前中に入りたい方や午後から希望されたりと、入りたい時にゆっくり出来るよう支援している。	浴室、脱衣場共に明るく清潔感があり温かい。バイタルチェックにより利用者の健康状態を把握、体調変化に気を付けながら、利用者希望により入浴は午前、午後で対応可能。1日に2～3名、一人が週2回以上は入浴できている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを崩さないよう、無理に他の入居者に合わせることをしないよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果や薬の変更があった場合は、個々のファイルの受診ノートに記入し、職員共有のノートにも記載している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いの声掛けをし、テーブル拭きや、洗濯物たたみ、新聞紙折りなど手伝っていただいた後に感謝を伝えると喜んでもらえるよう支援している。全員で風船バレーやカラオケ、しりとり、カルタ取りで大きい声を出して喜んでいただけるよう支援している		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、お花見や菊祭り、地域のお祭り等に出掛けたり、天気の良い日はドライブを積極的に取り入れ、気分転換を図っている。	季節に応じて、お花見や近隣公園のあやめ祭り、菊祭り、地域のお祭り等、情報収集、トイレなど環境を確認しながら出かけている。天気の良い日は感染対策のしやすいドライブを積極的に行っている。家族付き添いで病院受診や、買い物、外食なども、マスク着用しながらではあるが制限せず協力している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっている方や預かり金がない方は立替金で、本人の希望とする物など、欲しいものを購入できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽を流したり、落ち着いた居心地の良い空間作りをしている。ホール内に3箇所のトイレがあるため、トイレ介助の際に便臭には特に気を配り、スプレーなどを使用しながら対応している。	ホールは静かに音楽が流れ、空気清浄機が稼働している。温度、湿度が調整され過ごしやすい空間となっている。施設内は柔らかい光とトイレの清潔、においにも気配りされている。浴室は明るく換気も行き届いている。利用者の動向は職員が常に見えるレイアウトになっている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにあるソファは、気の合う方同士で会話を楽しんだりテレビを見てゆっくりと過ごしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から思い入れのある家具や本、小物等遠慮なく持ち込むことが出来る。その人らしく使いやすいようにレイアウトし、居心地の良い安心して生活出来るよう心掛けている。	居室はなじみの家具や家族写真、健康器具等それぞれ個性的で、好みを尊重した以前の生活の様子がわかるような、心地良く過ごせる空間になっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて、車椅子や歩行器、シルバーカーを使用しながらも、杖や手すりを使い歩行訓練を行うなど自立した生活が送れるよう支援している。		